

平成 26 年度卒業式学長式辞（27 年 3 月 18 日）

今年の冬は、寒波が繰り返しやってきて、厳しい寒さが続きましたが、春の足音は日増しに近づき、今年も、明るい陽光のもと、卒業生の皆さんが本学から巣立っていくときがめぐってきました。

本日ここに、駿河台大学第 25 回学位記・卒業証書授与式に当たり、学士課程 5 学部を卒業される 885 名の皆さん、修士課程三研究科、専門職学位課程一研究科を修了される 21 名の皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。

また、本日は、多数のご父母の皆様にもご参列いただいています。ご父母の皆様には、ご子息様ご息女様のご卒業、誠におめでとうございます。また、本学に対するこれまでのご支援に心より感謝いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。さらに、本日は、多くのご来賓の方々にご参列をいただいております。ご多用の中ご臨席くださり、篤く御礼申し上げます。

思い起こせば、卒業生の皆さんが本学に入学されたのは、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の直後でした。大震災に続く強い余震や、計画停電の実施、そして、電力不足に伴う交通機関の混乱が続く中で、本学は、やむなく 2011 年度の入学式を 5 月 4 日に延期しました。新入生の中にも、震災に遭われた方、家族が被災された方が多数いらっしゃいました。この大震災により被災された地域の復興はまだまだ十分ではありません。また、災害に遭われた方々の心の傷は容易に癒えるものではありません。私達は、災害に遭われた方々の気持ちに心を寄せることをいつまでも忘れずに、被災地、被災された方々を支援する機会があれば、積極的に協力するという気持ちを持ち続けなければならないと思います。

さて、日本社会は、長く経済の沈滞期にありましたが、今ようやく我が国経済も長いデフレ状態から脱しつつあります。他方、現代社会はグローバル化が急激に進む中で、大きな変動を感じさせる時代に入っています。日本を変革して、我が国を明るい希望と活気に満ちた国にしていく役割は、皆さん達若い人達に期待されています。今、社会の門口に立つ卒業生の皆さんは、自分の将来の夢に向かって進もうという前向きな気持ちと、漠然とした不安の両方を感じていることでしょう。しかし、皆さんの将来は、大きな可能性に満ちています。10 年、20 年先の皆さんがどうなっているかを決めるのは、これからの皆さんの努力次第なのです。

ところで、昨年 10 月に文部科学省所管の機関が公表した「日本人の国民性調査」によりますと、「生まれ変わるなら日本か外国か」という問いに対して、「日本」と回答した人

の割合は、前回の平成 21 年の調査を上回り、83%であったということです。20代では、男性は前回の54%から75%へ、女性は前回の64%から72%へと、いずれも大きく増加しています。私の若い頃を思い返してみると、若い人達が現在の日本をこのように肯定的に見ているのかと、驚きます。

若い人達が自分の国を否定的に見たり、将来に悲観ばかりしていることは、国家として重大な問題です。したがって、この調査のように、若者が自分の国に誇りを持ち、将来に希望を持つことは、大変喜ばしいことです。しかし、急激に動いていく世界の中で、今のような平和で豊かな日本を維持していくためには、日本の国民の不断の努力が必要です。そして、そのために中核的役割を果たすのは、言うまでもなく、皆さん達若い人達なのです。多くの国々が急速に発展を遂げつつある世界の中で、わが国が経済発展を続け、心豊かな社会を維持していくためには、近隣諸国との良好な関係の構築も必要です。他国や異なる文化を排斥するのではなく、受け入れる心、さらには、世界の平和と安定を願う強い心が必要です。また、我が国企業が世界の中で競争に勝ち抜いていく努力も不可欠です。そして何よりも個々の国民の努力が必要です。

このような視点から考えるとき、私が卒業される皆さんに期待したいのは、特別なことではありません。皆さんが、それぞれの道において、それぞれの職場において、日々誠実に自分の職務を尽くし、日々自分の能力の向上に努め、職場においてなくてはならない存在へと成長していくこと、そして、各人が自分の幸せ、家族の幸せのために力を尽くしていくことが、結局は、社会の安定と豊かさをもたらしてくることにつながるのだということを理解してほしいと思います。私は、皆さんのご卒業に当たり、このような社会人としての自覚と責任を心に刻むことをお願いしたいと思います。

どうか、明るく前向きな気持ちを常に忘れずに、本学での学びを基盤として、これから社会で出会う多くの人達から、いろいろなことを学び、成長して行って下さい。そして、自分と家族とを大切に、精一杯自分らしい人生を生きていくことを、心より願っています。

最後に改めて、ご卒業のお祝いを申し上げますと共に、皆さんの益々のご健勝とご活躍を心からお祈りして、式辞に代えさせていただきます。

平成 27 年 3 月 18 日
駿河台大学 学長
川村 正幸